

須賀川市立稲田小学校第 2 学期教育課程反省
(教職員による 2 学期の教育活動の自己評価より)

○成果 ●課題

「5」大変よい 「4」よい 「3」ふつう 「2」課題あり 「1」わるい		
【いつも元気でがんばる子供（体）】		
○健康教育の推進（保健・食育等の重視）	評価	3. 4 4
<p>①栄養についての話も含め食育指導を行ったので、苦手なものも食べられる量が少しずつ増えてきた。</p> <p>②生活習慣アンケートや個別の保健指導を行ったので家庭の意識も高まっており、成果が出ていると感じた。</p> <p>③給食時の献立紹介の「にんじん通信」が、食育の観点から大変効果的である。</p> <p>④朝食調べ週間前に個別に指導をした結果、朝食摂取率が上がった。「げんきチェックシート」による取り組みも栄養バランスなどを考えるよい機会になった。</p> <p>❶肥満傾向児童の家庭に対し、養護教諭からも体重計測の結果等様々な情報を提供しているが、なかなか改善されない。</p> <p>❷寝る時間が遅い子が多い。遅くまでネット機器を使用している様子もうかがえる。</p> <p>❸学活や保健の授業にもう少し養護教諭に関わってもらえるようにしたい。</p>		
○教科体育の充実（基礎的基本的運動技能の向上）と運動の日常化	評価	3. 7 5
<p>①毎日の RUNRUN タイムの取り組みはよくできていた。</p> <p>②RUNRUN タイムに目標を持って取り組ませたことにより、校内持久走記録会においてその成果が見られた。記録会以降も子供と一緒に担任や支援員が継続して走ることができた。</p> <p>③外で元気に遊ぶ姿が多く見られた。</p> <p>④運動身体づくりプログラムを継続的に行った。</p> <p>⑤学習カードを活用することで、めあてを持って運動に取り組ませることができた。</p> <p>⑥子供達の運動量を十分に確保することができた。</p> <p>⑦外部講師を招き、子供たちの運動への興味・関心を高めることができた。</p> <p>⑧陸上交流大会に向け担任以外の職員にも指導していただき、技能・体力を高めることができた。</p> <p>❶RUNRUN タイムでは持久走記録会に向けて目標を持って取り組む子が見られたが、一方で、苦手な子は室内に残りがちだった。</p> <p>❷肥満傾向の児童が積極的に運動できるような取り組みについて検討が必要。</p>		
○安全に行動できる判断力の育成（放射線教育を含む）	評価	3. 0 6
<p>①積極的に安全に行動するための指導を行った。</p> <p>②安全な下校の仕方についても、繰り返し全体で指導してきた。</p> <p>③学級の朝、帰りの会等を利用して、日常から安全への意識が高まるように働きかけている。</p> <p>④予告なしの避難訓練では適切な行動がとれた。</p> <p>❶安全に留意して行動するよう声を掛けてきたが、なかなか徹底させることができなかった。</p> <p>❷学校のきまりを遵守させたい。</p> <p>❸道路の歩行、廊下の歩き方などまだまだ不十分な点が目立った。</p> <p>❹自転車乗りの約束を守れない児童が見られた。</p> <p>❺遊び(遊具の使い方)や普段の生活の中で起こる危険について、考えて行動できるようにさせたい。</p>		

【なかよく助け合う子供（徳）】

○基本的な生活習慣の確立（あいさつ・言葉遣い等）	評価	2. 8 8
<p>①言葉遣いは改善されてきた。</p> <p>②敬語が少しずつ使えるようになった。</p> <p>③大きな声であいさつができる子が多かった。</p> <p>④相手に優しい言葉遣いができるよう話してきた。</p> <p>⑤生活委員会が主体で行ったあいさつ運動の取り組みをがんばっていた。</p> <p>⑥元気なあいさつができていた。</p> <p>⑦自分からあいさつを元気に言える子が100%になるように頑張らせた。</p> <p>⑧「おはようございます」「さようなら」のあいさつはできるが、廊下でのあいさつや返事、校外活動等でのあいさつの仕方に課題があるため、今後も継続して指導していきたい。</p> <p>⑨友達の呼び捨て等、乱暴な言葉が目立った。</p> <p>⑩言葉遣い、呼び捨てについてはまだまだ継続指導が必要。家庭での言葉遣いにも一因があると思う。</p> <p>⑪常に（学級の）目標として掲げてきたが、あいさつ・言葉遣いについては十分ではない児童もいる。今後も全ての学年で言葉遣い（呼び捨てをしないも含む）については厳しく指導していきたい。</p> <p>⑫言葉遣いの悪さが目立つ。日常化してきているので意識させていきたい。</p>		
○学校教育全体で行う道徳教育の充実	評価	3. 2 5
<p>①道徳を含め指導したことが生活に反映されることを目標に指導してきた。繰り返し指導している。</p> <p>②善い行い、悪い行いの判断について、また、いじめ、言葉遣いについて資料を入れ替えるなどして工夫しながら指導してきた。</p> <p>③道徳の時間に学習した価値を学校生活や日常生活の中で生かすことができる場面では、その学習を想起させ指導に生かすようにしてきた。</p> <p>④問題が起きた後の消極的指導が多くなってしまった。問題が起きないような心を育てていきたい。</p> <p>⑤道徳で学習した内容を実践に結び付けていくことが課題である。</p> <p>⑥指導してきて、概ね心に響いているようだが実践できていない児童もいる。</p>		
○励まし合い、協力し合う子供集団の育成	評価	3. 5 0
<p>①励まし合って活動できる子供が多くなった。グループ活動も成立するようになってきた。</p> <p>②帰りの会でよいことをした子について発表する場を設けたことで、よさを認め合う雰囲気を作ることはできた。</p> <p>③持久走記録会では、頑張っている友達を一生懸命応援する姿が見られた。</p> <p>④些細なことでのトラブルが減り、落ち着いて生活できるようになった。</p> <p>⑤普段の生活、学習場面で励まし合いながら協力し合うことが多かった。また、陸上大会や秋華祭では本番だけでなく練習・準備中も励ましたり、協力したりして進められた。</p> <p>⑥自分の事を優先してしまう傾向があるが、そんな中でも全員で何かをする時などに声を掛け合い協力する姿が多く見られるようになってきた。</p> <p>⑦協力して活動できる子がほとんどだが、活動の中でトラブルになってしまう場面も見られた。</p>		
【楽しく勉強する子供（知）】		
○基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力等の育成	評価	3. 3 8
<p>①読み・書き・計算の力が伸び、自力で学習できる子供が増えた。</p> <p>②ノート指導に力を入れた結果、1学期に比べて自分の考えを書くことができるようになった。</p> <p>③グループやペア学習を意図的に入れ、互いの考えを伝え合ったり、協力して課題を解決したりして、学習すること</p>		

<p>の楽しさを味わわせることができた。</p> <p>④担任外教員の協力を得て、算数のコース別学習を行い、効果的である。</p> <p>⑤算数では毎日適用問題を宿題に出したり、コース別指導(個に応じた問題量・内容を準備して)を行ったりしてきた。テストでも全国平均を超えることができた。</p> <p>⑥児童の実態に合わせ、個別指導を充実させることができた。</p> <p>❶思考力を伸ばす授業づくりをしていきたい。</p> <p>❷自分の考えを積極的に発言できる子供が少ない。</p> <p>❸個人差が大きいため、個に応じた学習の進め方に工夫が必要である。</p> <p>❹知識を思考につなげられるようにしていきたい。</p>		
○特別支援教育の充実	評価	3. 5 6
<p>①特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携を図ることができた。</p> <p>②スクールカウンセラーに適切なアドバイスをいただけることがありがたい。</p> <p>③特別支援教育支援員の先生の大変な存在が大きい。</p> <p>④個に応じた指導が十分になされている。</p> <p>❶通常学級に在籍する個別指導を必要としている児童に対して、支援が十分にできない。</p> <p>❷全職員でチームとなり支援できる体制づくりをさらに進めていけるとよい。</p>		
○学校図書館を利用した読書活動の推進	評価	2. 8 8
<p>①授業でも図書室を活用し、司書に読み聞かせなどしてもらうことができて良かった。</p> <p>②調べ学習では、様々な本に触れることができ、朝の読書にも生かすことができた。</p> <p>③進んで本を借りに行く子が多い。</p> <p>④図書委員会が企画した、本を借りた児童へ学級ごとに異なる図柄のパズルのピースを渡し、そのパズルの完成を目指すという取り組みがとても良かった。学級でも工夫して取り組ませたい。</p> <p>⑤図書室の環境が良く、児童も活用している。児童が興味を持ちそうな新刊も入り、大変喜んでいる。</p> <p>❶よく利用する児童とあまり利用しない児童の差が見られた。</p> <p>❷児童によっては休み時間ごとに様々な役割等があり、図書室を十分に活用することができなかった。</p>		
○小中一貫教育・幼小連携の推進	評価	3. 0 0
<p>①中学校との距離が縮まり、交流が増えてきた。</p> <p>②秋華祭の事前の取り組みが良かったと思う。</p> <p>③来年度のスタートに向けみんながんばった。秋華祭の準備を小中学生が一緒に行っている姿がとても心に残っている。</p> <p>❶小中一貫に関する話し合いなどに充てるための時間が足りない。</p> <p>❷小中一貫に向けてビジョンがはっきりしないことが多い中で進めていくのが難しい。調整をうまくして、今後計画的に進められるようにしていきたい。</p> <p>❸秋華祭への関わり方(児童・教師)については、検討の余地がある。</p> <p>❹小中一貫校だからこそできることを考え、次年度取組んでいきたい。</p>		
自由記述 (全教育活動から)		
<p>①毎週水曜日に行っている、算数の基礎学力定着を目指したプリント学習の時間ウルトラタイムでは、発展問題にも取り組ませることで上位の児童が意欲的に取り組めた。</p> <p>②ウルトラタイム時に児童のプリントの採点支援をしてくださるスクールサポーターはありがたい。</p> <p>③3年生のクラブ活動見学では、“4年生になったら…”と希望を持つ児童が多く、充実した時間になった。</p>		

- ④清掃場所への移動の仕方について指導があり、落ち着いて移動できるようになってきている。
- ⑤習熟度別コース学習は、子供も自分のペースで学習できるので喜んでいる。能力の高い子も手応えのある問題に取り組む、力を伸ばしている。問題等の準備は大変だが、効果があり良かった。担任外の先生方の協力をいただき、ありがたかった。
- ①自主学習を充実させたい。
- ②清掃場所への移動、無言清掃を徹底させたい。
- ③清掃中の無言清掃を徹底するために、始まり方の工夫が必要である。
- ④短縮時程の日のお話会は時程的に苦しいため、通常日程の際のみの実施にしたい。
- ⑤見学学習や研修バスの日程に余裕を持たせたい。
- ⑥朝の会の時間にもう少し余裕を持たせられるようにしたい。
- ⑦日程の変更など決まったことについて、共通理解が図られるようにしたい。
- ⑧登校の際、安易に送迎をせずに登校班で歩いてくるよう声を掛けたい。
- ⑨担任も一緒に朝の読書ができるとうい。

キャリア教育指導計画に基づく反省

評価 3. 4 3

- ①家庭の協力を得て名前の由来について道徳で授業を行い、自分はとても大切な存在であることなどを認識させることができた。
- ②係の活動内容を明確にすることで各々の係の仕事に意欲的に取り組むことができた。
- ③係活動では、毎月係の反省をし、活動を見直したり、お互いを認め合う場を設けたりしたことで、たくさんの子が積極的に係活動を行うようになった。
- ④研究授業（道徳）を通して、自分の存在意義が分かり、自分を大切に思う気持ちが生まれた。
- ⑤コミュニケーションスキル育成のため、グループ・ペア活動を多く取り入れ、自分の考えと比較させながら学習する場や時間を確保した。
- ⑥自己理解・自己管理能力の育成について、道徳の時間に自己を見つめる発問の工夫を意識して行ってきた。“自分だったらどうか”を考えさせることで、自己理解につながったと思う。
- ⑦責任感の育成のため、日常の係活動等で自分の仕事を意識させるようにしている。
- ⑧感情のコントロールができない場面では、個別に話をし、具体的にどうすればよかったかを考えさせた。
- ⑨宿泊学習を通して自信を持てる子が増えてきた。
- ⑩中学生との交流体験活動・部活動体験、鼓笛引継ぎを通しながら、より良い人間関係をつくと共に自分の置かれた立場を理解し行動することができた。また、行事（陸上・秋華祭）の練習を通して互いに協力し、目標を達成し、充実感を味わうこともできた。
- ⑪「自立活動」の時間に、ソーシャルスキルワークを取り入れて学習してきた。
- ①子供の实態からも、スキル教育を重点に組み込んで行ったらよいのではないか。